

施策番号	0403		
施策名	地域コミュニティと京都市との新しいパートナーシップ		
概要	自主的に取り組む地域コミュニティと京都市との新しいパートナーシップを確立するため、京都市が新たなしくみづくりや支援機能の強化を図る。		
担当局・部室	文化市民局・市民生活部	共管局・部室	
上位政策	4 市民生活とコミュニティ		
施策に関する 主な分野別計画等			

### 施策の評価

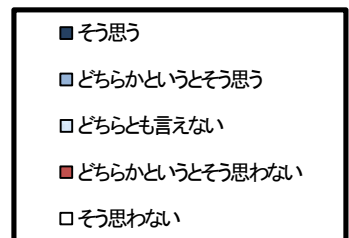
#### 1 客観指標評価

指標名	年度	年度	23年度評価					指標のウエイト
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	
1 まちづくりアドバイザーが活動支援を行っている学区数(学区)	-	-	-	47	-	-	-	
2 -	-	-	-	-	-	-	-	
3 -	-	-	-	-	-	-	-	
4 -	-	-	-	-	-	-	-	
5 -	-	-	-	-	-	-	-	
6 -	-	-	-	-	-	-	-	
<b>客観指標総合評価</b>							-	

#### 2 市民生活実感評価

\*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問	23年度回答					有効回答者数	評価
	そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない		
1 町内会、自治会などの地域の組織の主体的な活動と、それに対する行政の支援とがうまくかみ合っている。	22 4.0%	122 22.0%	249 44.9%	102 18.4%	59 10.6%	554	c
2 -							-
3 -							-
4 -							-
5 -							-
<b>市民生活実感調査総合評価</b>							<b>C</b>



### 3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

<b>C</b>	<b>施策の目的がそれぞれ達成されている</b>					年度	-
	重み付け	<input type="checkbox"/> 客観指標	-	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の実感	c		
(重み付けの理由) 地域コミュニティは共同体意識を基礎とすることから、その協力体制も実感されることに意義があるため、市民の実感に重みを置く。						年度	-
(原因分析) ・客観指標については、調査を開始したところであるため、次年度から実績値を踏まえた目標値を設定し、評価を行う。このため、今年度は市民生活実感調査を総合評価とする。 ・市民の実感については、4割以上の方が「どちらとも言えない」と回答されているが、否定的な回答が肯定的な回答を上回ることから、地域コミュニティと本市とのパートナーシップの確立と周知を強化する必要がある。						年度	-

#### 今後の方向性の検討

#### <この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		23年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		22年度 決算額	23年度 予算額		
1	個性あふれる区づくり推進事業	412,595	390,977	普通	文化市民局
2	地域コミュニティの活性化に向けた方策の調査・検討	14,971	26,117	良い	文化市民局
3	各区基本計画推進事業	0	122,923	-	文化市民局
4	次期各区基本計画の策定	185,433	-	-	文化市民局
5	中京区まちづくり次世代推進者共育支援制度	1,985	2,035	かなり良い	区役所
6	大学・地域いきいき東山推進事業	2,317	-	悪い	区役所
7	「山科区交通問題研究会」の設立	5,444	-	かなり良い	区役所
8	南区企業の“知”活用促進事業	0	4,306	-	区役所
9	「花畑と稲穂の里山」岩陰活性化事業	3,238	-	普通	区役所
10	「伏見学連続講座」(仮称)の開講	0	6,198	-	区役所
11	「西京塾」発 公園の魅力発見シンポジウム	3,629	-	かなり良い	区役所
12	大岩街道周辺地域の良好な環境づくりの推進	30,394	32,884	かなり良い	区役所
13	区民が選んだ「山科の魅力」の選定	8,485	-	-	区役所
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

\*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

#### <今後の方向性>

・まちづくりアドバイザーが支援を行う学区数を増やす取組は元より、地域コミュニティからの相談に応じ、情報の提供、助言などを行うこと等により、地域コミュニティと本市とのパートナーシップの確立と周知に努める。

施策名	0403	地域コミュニティと京都市との新しいパートナーシップ			
指標名	まちづくりアドバイザーが活動支援を行っている学区数(学区)				
担当課	地域づくり推進課	連絡先	222-3049		
<b>1 指標の説明</b>					
地域コミュニティの自主的な活動に対し、まちづくりアドバイザーが支援を行っている学区数					
<b>2 指標の意味</b>			<b>3 算出方法・出典等</b>		
住民が主体的に課題に取り組むまちづくりに向けて、地域組織と京都市の共汗によるまちづくりの進捗状況を示す指標			算出方法：まちづくりアドバイザーへの調査		
<b>4 数値</b>					
	前回数値 年度	最新数値 22年度	推移	目標値	
数値	-	47		数値	根拠
				-	22年度の現況値が47学区であり、23～32年度に110学区(年6学区増)にすることを目標とする。
	全国順位	中長期目標			
		数値	目標年次	達成度	根拠
数値		110学区	32年度		23年度から32年度に年6学区増
<b>5 評価基準</b>		<b>6 基準説明</b>		<b>7 評価結果</b>	
目標値に対する割合が a：100%以上 b：90%～99% c：80%～89% d：70%～79% e：69%以下		目標値をaとし、以下10%刻みで基準を設定した。			23
				-	-